

属性による議員の政治的意見と所属会派の政治的意見の一致度に違いはあるのか

2023年1月31日

津田塾大学総合政策学部総合政策学科

## 1.はじめに

会派や政党に所属している議員が必ずしも、団体として掲げている政治的理念や全体の政治的意見に全て一致している訳ではない。基本的に似た意見を持つ人間が特定の会派に属するが、同じ集団に属する人間たちの考えが完璧に全て同じとは考えるのは難しい。全体的な会派の意見とそれに属する人間一人一人の意見はどの程度一致しているのだろうか。またその一致する程度は会派などの属性ごとで違いがあるのではないか。本稿では東京都議会議員に焦点を当て、所属している会派と議員の考えがどの程度一致しているのか、主に所属会派ごとに分析を行う。

## 2.先行研究

まず、谷（2018）は政党が所属議員をどのように離党から防いでいるのかという疑問をもち、それを明らかにするための先行研究のなかで、政治的凝集性が高い政党ほど離党者が出にくいこと、また、政党との政策距離が遠いほど離党しやすく、政党規律の強い政党ほど離党者を出しやすいことに触れている。谷（2018）が触れた先行研究に従えば、政党によって政治的凝集性や政策距離、政党規律に特徴があれば離党者の数にも違いがあり、離党者が多いほど政党に属する議員の全体的な政策選好に統一性が出ると考えられる。したがって会派によって所属議員の政的意見と会派全体の政的意見の一致度にはばらつきがあると考えられる。

次に、石間（2017）は、オーストラリア労働党を事例に挙げ政党の一体性について調査を行なった。分析を行なった結果、オーストラリア労働党の一体性の高さは、両院の議員が所属する組織であるコーカスにおける内閣提出法案の事前審査によって説明できる可能性が高いということを指摘している。この一体性について、初めに凝集性の高さ一体性の関連、規律の厳しさと一体性の関連について検証をしていたが、どちらも正当性は証明できなかった。したがって政党の一体性については政党ごとの規律などの特徴だけでなく、他の要因も十分に考えられる。

さらに、建林（2014）は自民党に着目し、自民党の中で若手議員（新人議員）とシニア議員（多選議員）との間に、政策指向の違いが生じているのではないかという仮説を立てた。分析の結果、自民党の若手とシニアの間に政策選好の違いが少なからず存在していることが示された。建林（2014）は自民党内で若手議員とシニア議員で政策指向の違いが生じていることを示した。したがって、保守会派では所属議員の政的意見と会派の全体的な政的意見の一致度にばらつきがあるのではないかと考えられる。

## 3.仮説

先行研究により、会派によって所属議員の政的意見と会派全体の政的意見の一致度にはばらつきがあると考えられること、政党の一体性については政党ごとの規律などの特徴だけでなく、他の要因も十分に考えられること、保守の会派では所属議員の政治的意見と会

派の全体的な政治的意見の一致度にばらつきがあるのではないかと考えられる。本稿では上記の背景をもとに以下の二つの要因で仮説を立てた。

一つ目は、所属会派である。「右派の会派は議員と所属会派の政治的意見の一致度のばらつきが大きく、左派の会派はばらつきが小さい」という仮説を立てる。さらに、「右派の会派の方が所属している議員と所属会派の政治的意見の一致度が小さく、左派の会派の方が大きい」という仮説を立てる。二つ目は、年齢である。「議員の年齢が議員と所属会派の政治的意見の一致度に作用しているのではないか」という仮説を立てる。また、「性別も議員と所属会派の政治的意見の一致度に作用しているのではないか」という仮説を立てる。

#### 4. データ、変数、分析方法について

研究で用いる調査データは「津田塾大学中條研究室 2022 年度第 5 回東京都議会議員調査」である。上記の調査対象は東京都議会議員 123 名(2022 年 10 月調査時点)である(内、回答者は 60 名)。調査票の回収期間は 2022 年 10 月 14 日から 2022 年 11 月 20 日であり、回答方法は郵送による調査票、またはウェブサイト(google form)への回答である。以下は調査データから利用した尺度を説明し、表 1 としてまとめたものである。

表 1：使用する調査データと変数

変数	調査票の質問	尺度
Q10	会派に所属している方にお聞きします。あなたは自分が所属する会派の考えに、どの程度一致していますか。全て一致しない場合を 0%、全て一致している場合を 100%としたときに一番近い数字をお答えください。	0~100までの連続変数
性別		男=1、女=0
年齢		連続変数
会派		都民ファースト、自民、公明、立憲民主、共産、無所属

また、本稿では会派の政治的立ち位置を以下の表 2 のように定義する。

表 2：本稿での会派ごとの政治的立ち位置の定義

左派	中立	右派
立憲民主 共産	公明	自民 都民ファースト

## 5.分析結果

(1)会派ごとの議員と所属会派の政治的意見の一致度について  
まず、会派ごとの会派一致度の回答の平均値を求め、以下の表3にまとめた。

表3：会派ごとの会派一致度の回答の平均値

	平均値
自民	88.182
都民ファースト	86.389
公明	94.000
立憲民主	88.750
共産	97.800

左派会派の共産の平均値が最も大きく、右派会派の都民ファーストの平均値が最も小さい。

次に、会派ごとの会派一致度の回答の標準偏差を以下の表4にまとめた。

表4：会派ごとの会派一致度の回答の標準偏差

	標準偏差
自民	12.505
都民ファースト	9.363
公明	8.944
立憲民主	6.944
共産	3.610

右派会派の自民の標準偏差が最も大きく凝集性が低く、左派会派の共産の標準偏差が最も小さく、あまりばらつきがない。また会派を標準偏差の降順に並べると、上から右派、中立、左派の会派で並んでいる。

さらに右派と左派で上記の表2に有意差があるかどうかを検証するため、(a)自民と立憲民主、(b)自民と共産、(c)都民ファーストと立憲民主、(d)都民ファーストと共産、のそれぞれで独立した2群のt検定を行う。また検定をするにあたって、有意水準は5%とする。

(a)自民と立憲民主のt検定

表 5 : (a)の仮説

帰無仮説	自民と立憲民主の会派一致度には有意差はない
対立仮説	自民と立憲民主の会派一致度には有意差がある

表 6 : (a)の結果

自由度	17.000
t値	-0.116
p値	0.909

p 値 > 0.05 であるので、帰無仮説が採択される。よって自民と立憲民主の会派一致度には有意差がない。

(b)自民と共産の t 検定

表 7 : (b)の仮説

帰無仮説	自民と共産の会派一致度には有意差はない
対立仮説	自民と共産の会派一致度には有意差がある

表 8 : (b)の結果

自由度	24.000
t値	-2.841
p値	0.009

p 値 < 0.05 であるので、帰無仮説は棄却され、対立仮説が採択される。よって自民と共産の会派一致度に有意差がある。

(c)都民ファーストと立憲民主の t 検定

表 9 : (c)の仮説

帰無仮説	都ファと立憲民主の会派一致度には有意差はない
対立仮説	都ファと立憲民主の会派一致度には有意差がある

表 10 : (c)の結果

自由度	24.000
t値	-0.637
p値	0.530

p 値 > 0.05 であるので、帰無仮説が採択される。よって、都民ファーストと立憲民主の会派一致度には有意差がない。

(d) 都民ファーストと共産の t 検定

表 11 : (d) の仮説

帰無仮説	都ファと共産の会派一致度には有意差はない
対立仮説	都ファと共産の会派一致度には有意差がある

表 12 : (d) の結果

自由度	31.000
t 値	-4.444
p 値	0.0001

p 値 < 0.05 であるので、帰無仮説が棄却され対立仮説が採択される。よって都民ファーストと共産の会派一致度には有意差がある。

次に「所属会派が会派一致度にどの程度影響を与えるのか」を検証するために、目的変数を会派一致度、説明変数を所属会派とした重回帰分析を行う。有意水準は 5% とする。

表 13 : 重回帰分析の結果

目的変数：会派一致度	
共産	17.800** (6.392)
公明	14.000 (7.105)
自民	8.182 (6.528)
都ファ	6.389 (6.329)
無所属	20.000* (8.492)
立憲民主	8.750 (6.713)
サンプルサイズ	63
決定係数	0.2192

目的変数の共産と無所属の  $p$  値  $< 0.05$  なので、所属会派が共産であると他の会派より回は一致度が 17.8 高く、または無所属であると他の会派より回は一致度が 20 高くなる。

(2)年齢と性別が会派一致度に作用するのかについて

「年齢と性別が会派一致度に作用しているのか」について検証するため、目的変数を会派一致度、説明変数を年齢と性別として重回帰分析を行う。有意水準は 5% とする。

表 14：重回帰分析の結果

目的変数：会派一致度の回答	
年齢	0.094 (0.127)
性別	-5.787* (2.519)
サンプルサイズ	63
決定係数	0.067

目的変数の性別の  $p$  値  $< 0.05$  なので、会派一致度と性別は有意な関係であり、女性(0)であるほど所属会派への意見一致度が高い。

## 6.結果

まず「右派の会派は議員と所属会派の政治的意見の一致度のばらつきが大きく、左派の会派はばらつきが小さい」の仮説について、自民と都民ファーストの標準偏差が大きく、立憲民主と共産の標準偏差が小さいことから（表 4）、右派会派は議員と所属会派の政治的意見の一致度のばらつきが大きく、左派会派はばらつきが小さいことが読み取れるので、仮説通りの結果だったと言える。

二つ目の仮説の「右派の会派の方が所属している議員と所属会派の政治的意見の一致度が小さく、左派の会派の方が大きい」について、会派ごとの平均値は都民ファーストが最も小さく、共産が最も大きいことがわかった（表 3）。(a)の  $t$  検定からは、自民党と立憲民主では有意差がなく、(b)からは、自民と共産に有意差がることがわかった。(c)からは都民ファーストと立憲民主では有意差がなく、(d)からは都民ファーストと共産で有意差があることがわかった。(a)~(d)の  $t$  検定の結果から、右派会派と共産の会派一致度の平均値に有意差があることがわかった。

最後に三つ目の仮説「議員の年齢が議員と所属会派の政治的意見の一致度に作用しているのではないかと四つ目の仮説「性別も議員と所属会派の政治的意見の一致度に作用しているのではないかと」に関して、(2)で行った重回帰分析からは、年齢は会派一致度の回答と

有意な関係になく、性別は会派一致度の回答と有意な関係にあることがわかった。したがって三つ目の仮説は証明されず、四つ目の仮説は正しいと言える。しかし会派一致度に有意に作用する要因が他にも存在する可能性があるため、今回の重回帰分析だけでは三つ目の仮説を証明することは難しいと考える。

## 7.参考文献

石間英雄、2017、「事前審査による政党の一体性—オーストラリア労働党を事例として—」『年報政治学』68 巻 1 号 p. 1\_134-1\_158

[https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.68.1\\_134](https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.68.1_134)

建林正彦、2014、「政権交代と国会議員の政策選択 —2012 年選挙における自民党議員の政策選好—」『年報政治学』2014 年 30 巻 2 号 p. 19-34

[https://doi.org/10.14854/jaes.30.2\\_19](https://doi.org/10.14854/jaes.30.2_19)

谷圭裕、2018、「政党の戦略的行動が政党間移動に与える影響 -民主党分裂のケースから-」『年報政治学』69 巻 2 号 p. 2\_200-2\_223

[https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.69.2\\_200](https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.69.2_200)